まきばでひとやすみ。。

3月21日の朝は、とても良く晴れた気持ちの良い天気でした。
いつも通り、洗濯を回し朝食を用意し、まず子どもらに食べさせ私は一息つくためソファに座りました。メールを開き、目に飛び込んできた文字。一瞬理解ができず、頭の中が真っ白になり息が止まりました。子どもらに向かって「雄平君が、雄平君が、亡くなったって」叫びにも近い声と共に泣き崩れました。
どういうことなのか、なぜ彼なのか、どうして？どうして??
恐らく私だけでなく大勢の人がそう思ったと思います。
震える手で教会の親しい姉妹に電話をかけました。彼女もまた涙声で、雄平君とその家族の、深夜の出来事を話してくれました。「神様どうしてですか」という不信仰な叫びを最も多く心の中で繰り返したかもしれません。ちょうどヨブ記の学びをしたばかりなのに。神様の計画は人間の思いをはるかに超えた所にある、と頭では理解しつつも、あまりに受け入れ難い突然の別れ、また、彼の愛する家族のことを思うと涙が流れる日が続きました。しかし、亡くなる少し前から直前までの彼の様子を知り、いつ息絶えてもクリスチャンとして耳心じない、後悔しないような生き様であったこと、愛にあふれていたことに胸を打たれました。私は毎回このコラムをUPしてもらうために画像を撮り雄平君にLINEで送り、やりとりをしていました。亡くなる3日前の「今日も宿題に追われています！お互いファイトですね！」という彼からのメッセージが最後になってしまいました。

はこぶね便という、まさにGOD's アイディアな素晴らしい働きをスタートさせ、日々沢山の宿題に追われ、志なかばで天国へ行ってしまった彼。でも天国で、神様から「よくやった、良いしもべだ」とほめられているのが目に浮かびます。残したものがあまりに多く、大きかったことを改めて痛感させられましたが、はこぶね便は雄平君1人ではなく、神様が始めさせて下さったものであるからきっと神様が舵取りをして、舟台が傾くことも沈むこともなく守り導いて下さる、と信じています。イエス様と雄平君が並んで笑顔で見守ってくれてる光景を思い浮かべつつ、私もいつ、この世を去っても恥ずかしくない思いで、1日1日を大切に生きたい、と思わされたのでした。雄平君、沢山の愛と情熱をありがとう!! ロバ子。